

広島県糖尿病療養指導士認定試験のための糖尿病療養指導自験例の記録

症例番号: ①・2・3・4・5

受付番号(8ケタ): 氏名:

※分かる範囲で数値や薬品名を記入してください、選択肢については○で囲んでください

医療職	看護師	准看護師	助産師	保健師	管理栄養士	栄養士	薬剤師	臨床検査技師
	理学療法士	歯科衛生士	作業療法士	介護福祉士	健康運動指導士			臨床工学技士

1. 症例 ID : ( 000000 ) 年齢: ( 53 ) 歳 性別: 男・女  
 指導期間 : ( 2016 ) 年 ( 3 ) 月 ( 17 ) 日 ~ ( 2016 ) 年 ( 5 ) 月 ( 19 ) 日 ( 入院・外来・在宅 )

2. 療養指導開始時の患者の状態

(1) 病型 : 1型・2型・妊娠糖尿病・その他( )  
 (2) 罹病期間 : 約 ( 25 ) 年  
 (3) 嗜好品 : 飲酒 - + 喫煙 - +  
 (4) 体格 : 身長 ( 154 ) cm 体重 ( 59 ) kg BMI ( 24.9 ) kg/m<sup>2</sup>  
 (5) 検査データ : HbA1c ( 8.3 ) %  
 (6) 合併症 : 網膜症 - + ( 単純・前増殖・増殖 )  
 併発症 : 腎症 - + ( 病期 1・2・3・4・5 )  
 神経障害 - +  
 動脈硬化症 - +  
 高血圧症 - +  
 脂質異常症 - +

3. 療養指導開始時の医師の治療方針

(1) 食事療法 : 指示エネルギー ( 1500 ) kcal/日  
 減塩 - + ( ) g/日  
 蛋白制限 - + ( ) g/日  
 (2) 運動療法 : - + ( 具体的内容: ウォーキング 30分 週4回以上 )  
 (3) 薬物療法 : 経口糖尿病薬 - +  
 (薬品名: )  
 : インスリン - +  
 (薬品名: アピドラ ) 合計単位 ほぼ 20 単位/日

4. 本症例に行った療養指導

①この症例の療養指導上の問題点(あなたの職種から見て) ③主治医やチームの他職種との連携  
 ②その問題点への対応 ④あなたの指導による患者さんの変化

①1型糖尿病で、外来でのインスリンポンプ(ミニメド620G)導入となった患者さん。病歴が長くこれまでインスリン頻回注射で治療されていた。ポンプの導入時、看護師と一緒に関わった。基礎レートは当初フラットで0.2単位/時間、ボーラスインスリンは朝5昼6夕6の量であった。3日分のインスリン約80単位をシリンジに入れてポンプにセットし、注入を開始したところポンプの残量表示が赤色の最小表示となり、指導担当の看護師に不安が生じていた。

②取り扱いメーカーに直接連絡して確認したところ、「ポンプの設定間違いである」との回答であったが、代替器を使って使用したが同じ現象が認められた。メーカーの担当者立会いの下、予備のポンプで再現し、原因が判明した。ポンプの特性によるもので、ミニメド620Gはインスリン残量が175単位以上なら緑表示、それ以下で黄色表示、さらに90単位以下で赤表示となることを確認。この患者さんの使用インスリン量であれば赤表示で問題はなかった。

③この内容を、患者さんだけでなく主治医、指導担当の看護師にも伝え、使用上全く問題ないので、皆が安心した。また、ポンプの残量表示の特性についても情報を共有することができた。1型糖尿病としては肥満があり、栄養士に食事指導の徹底をお願いした。

④患者さんも十分納得の上、新規のインスリンポンプ導入が無事スタートできた。初期のトラブルは患者さんがポンプの操作に十分な興味を持つきっかけになり、減量により安全なポンプ治療に対する意欲がみられた。